

002、type trf が日本の医療機関で優勢であることがわかった。調査施設数を増やして検討する必要があると思われた。

PCR ribotype 027 株による感染が 1 例認められたが、調べた限りでは本タイプが流行株として問題となっているエビデンスは得られなかった。

アウトブレイク事例から、医療感染対策には、*C. difficile* 感染症に関する基本的な教育・啓蒙が必要であると再認識した。

F. 健康危機情報

日本の医療機関では、いまだ本症に対する関心が低いと、多くの症例やアウトブレイク事例が見逃されていると考えられる。サーベイランス活動は必要であるが、医療機関、保健所、地方衛生研究所との情報共有と知識のボトムアップが行われることが前提と思われた。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. He, M., Miyajima, F., Roberts, P., Ellison, L., Pickard, D. J., Martin, M. J., Connor, T. R., Harris, S. R., Fairley, D., Bamford, K. B., D'Arc, S., Brazier, J., Brown, D., Coia, J. E., Douce, G., Gerding, D., Kim, H. J., Koh, T. H., Kato, H., Senoh, M., Louie, T., Michell, S., Butt, E., Peacock, S. J., Brown, N. M., Riley, T., Songer, G., Wilcox, M., Pirmohamed, M., Kuijper, E., Hawley, P., Wren, B. W., Dougan, G., Parkhill, J., Lawley, T. D.. Emergence and global spread of epidemic healthcare-associated *Clostridium difficile*. Nat Genet. Published on line.
2. 加藤はる. (2012)「特別講座」BI/NAP1/027 クロストリジウム・ディフィシル感染症について. 感染と消毒 19(2):p89-92. 2012.

2. 学会発表

1. Kato Haru, R. Tachibana, E. Yamada, M. Senoh, K. Adachi, C. Inoue, T. Inamatsu. Bacteremia and splenic

abscess due to *Clostridium difficile* without intestinal infections: a case report. 4th International *Clostridium difficile* Symposium. Slovenia, 2012 Sept.

2. Mayumi Murabata, H Kato, H Yano, and K Oinishi. Evaluation of culture media for *Clostridium difficile* isolation from environmental surfaces. 4th International *Clostridium difficile* Symposium. Slovenia, 2012 Sept.
3. Yasuaki Tagashira, Akira Nakamura, Mitsutoshi Senoh, Haru Kato. Two cases of fulminant colitis due to binary toxin-positive *Clostridium difficile*, which was neither PCR ribotype 027 nor type 078. 4th International *Clostridium difficile* Symposium. Slovenia, 2012 Sept.
4. Hidekazu Niwa, Haru Kato, Mitsutoshi Senoh, Seiji Hobo, Yuta Kinoshita, Kazuhisa Hariu, Kazuomi Oku, Taisuke Kuroda, Kenji Nakai. Isolation of PCR ribotype 078 *Clostridium difficile* from five cases of fulminant colitis in Thoroughbred Racehorses. 4th International *Clostridium difficile* Symposium. Slovenia, 2012 Sept.
5. Mitsutoshi Senoh, Haru Kato, Keigo Shibayama. Rapid detection method of live *Clostridium difficile*. 4th International *Clostridium difficile* Symposium. Slovenia, 2012 Sept.
6. 加藤はる 特別講演 *Clostridium difficile* 感染症について. 平成 24 年度馬防疫検討会「馬感染症研究会・研究部会」栃木 2012 年 10 月
7. 加藤はる シンポジウム V やるべき検査やめるべき検査 *Clostridium difficile* 培養検査. 第 24 回日本臨床微生物学会総会 横浜 2013 年 2 月
8. 加藤はる シンポジウム 9 感染症の隔離基準と解除基準 *Clostridium difficile* 感染症の感染管理 第 28 回日本環境感染学会総会 横浜 2013 年 3 月

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

表 9 医療施設から送付された *C. difficile* 分離株の毒素産生性検討結果とタイピング解析結果

医療機関	Toxin production				A ⁺ B ⁺ CDT ⁻					A ⁻ B ⁺ CDT ⁻				A ⁺ B ⁺ CDT ⁺			No. of isolates tested
	PCR ribotype	smz		001	okz	002		014	Others	trf			gf811	027	019		
	<i>slpA</i> ST*	smz-01	smz-02	gr-01	gr-02	yok-01	yok-02	hr-01	(5 types)	fr-01	fr-07	fr-08	fr-11	j52-01	gc8-01	cr-03	
A		4**												1			5
B		1				1				2	1						5
C		5				3		1					1				10
D		1		1		1			1							1	5
E		5					1					1					7
F		1	1			1		1		4						1	9
G		1				1	1	2	4								9
H		3				2				1							6
I		1			1	3		1		2							8
No. of total isolates		22	1	1	1	12	1	6	5	9	1	1	1	1	1	1	64

**slpA* ST, *slpA* sequence type; **number of isolates.

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
分担研究報告書

病院施設の規模別の感染対策の実態調査

研究分担者 西岡みどり(国立国際医療研究センター 国立看護大学校 教授・研修部長)

研究要旨

本研究は、(1)新感染症発生時におけるリスクコミュニケーション risk communication(RC)推進策提言、(2)『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)』¹の検証、(3)『避難所における感染対策マニュアル』の作成と検証を最終目的とする3年計画の最終年度である。

平成24年度は、(2)の手順書(案)における「手指衛生サーベイランス」と「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 *Methicillin-resistant Staphylococcus aureus*(MRSA)サーベイランス」を多施設で実施する調査を完了した。また、(3)について、震災後に公開された文献を網羅的に検討し、同マニュアルを検証した。

3年間の主要な成果は、(1)新感染症発生時のRCの要件を文献検討により明らかにするとともに全国の感染症指定医療機関を対象とした調査により2009年のインフルエンザパンデミックにおける感染管理看護師のRC実施率と平時の活動との関連を明らかにし、RC推進策を提言した。(2)手順書(案)における「手指衛生」と「MRSA」サーベイランスを7施設のNICUで実践し、MRSA検出率と手指衛生遵守率を明らかにし、同サーベイランスのリスク調整についての示唆を得た。(3)震災後早期に『避難所における感染対策マニュアル』を作成公開するとともに網羅的な文献検討により震災後に実際に避難所で使用された感染防止用品と具体的な用途を明らかにした。

本研究成果は、新感染症発生時のRC、中小病院におけるサーベイランス、避難所における感染対策の推進に活用でき、感染症危機管理への貢献が期待できる。

研究協力者

森 那美子 (国立国際医療研究センター
国立看護大学校)
坂木 晴世 (国立病院機構西埼玉中央病院)
藤田 烈 (東京大学大学院医学系研究科)
沼 直美 (元国立国際医療研究センター病院)
平松 玉江 (国立がん研究センター中央病院)
黒田 恵美 (国立国際医療研究センター病院
/国立看護大学校)
森兼 啓太 (山形大学医学部附属病院検査部)
坂本 史衣 (聖路加国際病院)
菅原 えりさ (日本赤十字社 医療センター)
櫻井 真秀子 (国立国際医療研究センター
国立看護大学校)

1) 新感染症発生時におけるRC実施に際しての要件を明らかにする。

2) 2009年の新型インフルエンザA/H1N1パンデミックにおいて、感染症指定医療機関の感染管理看護師(infection control nurse, ICN)が行った病院内外のRCの実態を明らかにする。また、ICNの平時の活動とパンデミック期におけるRCの関連を明らかにし、RC推進策を提言する。

2. 『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)』の検証(担当：坂木晴世)

NICUにおける1)擦式アルコール製剤の使用量と手指衛生の遵守率の関係、2)擦式アルコール製剤の使用量と医療関連感染の関係、3)擦式アルコール製剤使用量のモニタリング結果のフィードバックと遵守率の関係を明らかにする。

A. 研究目的

1. 新感染症発生時におけるリスクコミュニケーション(RC)の検討(担当：黒田恵美)

3.『避難所における感染対策マニュアル』(以下、避難所マニュアル)の作成と検証 (担当:坂本史衣、森那美子、菅原えりさ、櫻井真秀子)

1) 東日本大震災の避難所で活用できる避難所マニュアルを早期に作成し公開する。

2) 避難所マニュアルを検証する。

B. 研究方法

1. 新感染症発生時における RC の検討

1) 『RC の要件に関する文献検討』

PubMed、医学中央雑誌、および厚生労働科学研究成果データベースを用い、検索された英論文 27 件と和論文 47 件を検討した。

2) 『新型インフルエンザパンデミックにおける感染管理看護師の RC に関する調査』(以下、RC 調査)

(1)対象

対象は全国の第一種、第二種感染症指定医療機関および特定感染症指定医療機関計 549 施設において、2009 年度に感染管理を主担当した ICN。

(2)調査項目

調査項目は、病院内の RC の実態に関する 17 項目、病院外の RC の実態に関する 10 項目、対策実践職員との RC の詳細に関する 8 項目、対策実践職員との RC の情報獲得内容に関する 5 項目、病院属性に関する 8 項目、ICN 属性に関する 8 項目、ICN の平時の活動に関する 32 項目の計 88 項目とした。

返送された質問紙のデータは記述統計量を算出し単変量解析および多変量解析を行った。

RC の実態については、病院内外の対象別に、RC 実施についての回答区分ごとの件数と割合を算出した。また、「どちらかといえば行った」では RC を確実に実施したとは判断できないため、「どちらかといえば行った」「どちらかといえば行わなかった」「行わなかった」を RC 非実施とし、「行った」のみの回答割合を RC 実施率 (%) として算出した。

(倫理面への配慮)

国立国際医療研究センター倫理委員会の審査を受け承認を得た(受付番号 963、2011.2.7 承認)。

2. 『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)』の検証

『NICU における擦式アルコール製剤使用量と手指衛生遵守状況および微生物伝播の関連に関する調査』(以下、中小サーベイランス NICU 調査)を実施した。

1)対象施設

埼玉県内で感染管理認定看護師が感染管理を実践している 7 施設の NICU。

2)調査項目

調査項目は、施設の属性に関する項目(NICU 病床数、職種別人数、手洗い用シンク数、擦式アルコール製剤数、NICU の床面積、看護師の NICU 勤務平均年数)、手指衛生に使用する製剤、手指衛生遵守率、擦式アルコール製剤使用量、MRSA 検出率とした。

3)手指衛生遵守率

手指衛生遵守率は、訓練を受けた観察者により平日の 9-17 時の間に、後述する基準を満たす患者のうちランダムに選択した 1 人の患者について、患者接触時の手指衛生機会ごとに実施の有無を 2 時間観察した。手指衛生機会は文献レビューにより抽出した。患者の選択基準は、(1)保育器に收容されていること、(2)血管内留置カテーテルが挿入されていること、(3)経鼻的持続陽圧呼吸 nasal continuous positive airway pressure (NC-CPAP)または nasal directional positive airway pressure(DPAP)を含む人工呼吸器を装着していることとした。手指衛生遵守率は手指衛生が正しく実施された回数を観察された手指衛生機会を除し 100 を乗じて算出した。

4)擦式アルコール製剤使用量

擦式アルコール製剤使用量は、「手指衛生サーベイランス手順書(案)」¹の手法で、調査月における 1 患者/日あたりの擦式アルコール製剤

の使用量を算出した。

5)MRSA 検出率

MRSA 検出率は「MRSA 検出サーベイランス手順書(案)」1の手法で、調査月におけるMRSA 検出率を算出した。

6)介入方法

第1回および第2回調査の結果をフィードバック後、同様の方法で第3回調査を実施した。

(倫理面への配慮)

国立病院機構西埼玉中央病院倫理委員会の審査を受け承認を得た(受付番号 22-05、2011.1.31 承認)。

3.避難所マニュアル

1) 避難所マニュアルの作成

2011年3月11日の東日本大震災発生後、国内外の文献を分担邦訳し、症候群サーベイランス等を追加作成して、マニュアル草案を作成した。草案は研究班全体のメンバーでレビューして修正し完成した。

2) 避難所マニュアルの検証

(1) 宮城県感染管理看護師の意見聴取

2011年8月に宮城県の感染管理認定看護師の集会で震災後半年間の状況について聞き取りを行った。

(2) 避難所文献検討

東日本大震災の避難所において実際に使用された感染防止物品とそれらの使い方を明らかにすることを目的に文献検討を行った。データベースは医学中央雑誌を用い、キーワードを「東日本大震災」「東北地方太平洋沖」「地震」「災害」「津波」「避難所」「感染」として、検索された2011年から2012年までの文献607件のうち、次の2つの文献採用基準に合致する66件を検討した。文献採用基準は、1)東日本大震災の避難所における実際の支援活動経験に基づいて記述されているもの、2)感染防止を目的に使用された物品についての記述があるものとした。

C. 研究結果

1. 新感染症発生時におけるRCの検討

1) RC文献検討

抽出された文献の年代は2000～2010年で2009年以降に急増していた。感染症の種類は新型インフルエンザ(A/H1N1を含む)が32件と最も多く、SARSが13件、バイオテロが7件であった。

新感染症発生時にRCを実施するための前提条件として、「システム」「資金」「人員」「訓練」が不可欠であることが、同時に配慮すべき事項として、「不安対応」や「倫理的配慮」が重要であることが示唆された。

2) RC調査

549施設のうち211件の回答が得られ、2009年度に感染管理活動を主担当していなかった13件を除く198件(36.0%)を分析対象とした。結果の詳細は、別添「新型インフルエンザパンデミックにおける感染管理看護師のリスクコミュニケーション」調査報告書に示す。

RCの実態は、病院幹部とのRCと感染対策チーム構成員の医師とのRC実施率が80%以上と比較的高い値であったのを除き、全体的に低い傾向であった。特に対策実践職員とのRC実施率は、60%以下と充分ではなかった。対策実践職員とのRCの詳細では、ICNによる「不安や精神的ストレス」や「感染症患者の相談」についての情報獲得率が低い傾向にあった。

多変量解析結果よりRCに関連するICNの平時の活動は、「感染病棟職員」では、ICNの緊急連絡用携帯電話、国との窓口担当、および他職種からのコンサルテーション実施頻度であり、「感染病棟以外の職員」では、ICNのメールまたは連絡票などの文書による連絡手段、国立感染症研究所や委託業者の責任者との窓口担当、および他職種からのコンサルテーション実施頻度であった。また、RCに関連するICNの平時の活動は、「発症職員」では、ICNの専従、地方自治体や委託業者の責任者との窓口担当であり、「接触職員」では、近隣保育所や委託業者の責任者との窓口担当であった。

2. 中小サーベイランス NICU 調査

のべ84時間の観察時間に合計1465回の手指衛生の機会が観察され、遵守率は中央値63.0%であった。擦式アルコール製剤使用量は中央値25.1L/1,000患者日、新規MRSA検出率は中央値3.0件/1,000患者日であった。手指衛生遵守率および擦式アルコール製剤使用量と新規MRSA検出率の間に有意な相関は認められなかった。また、フィードバック前後における手指衛生遵守率には変化をみとめなかった。時間当たりの手指衛生の必要な機会が増加すると手指衛生遵守率は低下する傾向をみとめた。

3. 避難所マニュアル

作成した『避難所における感染対策マニュアル2011年3月24日版』は3月24日に国立看護大学校ホームページに、翌日に国立国際医療センターホームページに掲載した。

宮城県での意見収集では、必要物品等の情報が得られた。

網羅的な文献検討の結果、避難所で実際に使用された物品の種類と使い方において、特徴的であったのは、1)トイレ2)住環境3)食品における衛生管理に関連する物品であった。トイレ関連物品では、紙おむつ、新聞紙、ビニール袋、次亜塩素酸系消毒薬などが、トイレの汚染防止のために使用されていた。住環境関連物品では、ダンボールや卓球台などが隔離のための間仕切りとして使用されていた。食品関連物品では、食品包装用ラップフィルムや紙製食器などが、食材の微生物汚染防止のために使用されていた。また、ほとんどの避難所において、平時でも標準予防策のために使用される、マスクや手袋などの个人防护具や、擦式手指消毒剤が同じ用途で使用されていた。

D. 考察

1. 新感染症発生時におけるRCの検討

新感染症発生時に確実にRCを実施するために、RC実施に関する体制整備とともにRC担当者への教育が急務である。

また、RC調査の多変量解析で特定された関

連因子より、新型インフルエンザ発生時のRC推進には、平時よりICNを専従配置し、連絡手段を整備するとともに、ICNに国や地方自治体、近隣の保育所、委託業者の責任者との窓口を担当させることが効果的であると推定される。ICNの平時のコンサルテーション活動を看護職だけではなく他職種を含むすべての病院職員を対象として強化することも有効であると考えられる。

2. 中小サーベイランス NICU 調査

今回の調査結果では、手指衛生遵守率のばらつきは小さく、擦式アルコール製剤使用量は施設によってばらつきが大きかった。これは、調査対象者が、石鹸と流水による手洗いをより多く選択していた可能性が考ある。また、手指衛生が必要な機会が増加すると手指衛生遵守率が低下することから、擦式アルコール製剤使用量をモニタリングする時は、患者の重症度、即ち手指衛生の機会の多少に影響する患者の看護必要度や重症度などの因子を調整する必要があると考えられる。

3. 避難所マニュアル

避難所で使用された物品の種類と使い方は、標準予防策に必要な个人防护具や手指衛生用品の他に、1)トイレ2)住環境3)食品の衛生管理に必要な物品であった。本文献検討結果は、行政の災害備蓄リスト作成のための資料に活用できると考えられる。

「避難所における感染対策マニュアル2011年3月24日版」は、緊急のニーズには対応できたのではないかと考えられるが、今後の災害時に備えられるよう、必要物品等を中心に追加改訂が必要である。

E. 結論

2009年のインフルエンザパンデミック時のICNによるRC実施率は充分ではなかった。新感染症発生時に確実にRCを実施するためには、平時よりICNを専従配置したり、近隣施設等との窓口担当やコンサルテーション活動を強化したりする必要がある。また、RC実施に関す

る体制整備とともに RC 担当者への教育が急務である。

『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)』¹を用いた「NICUにおける擦式アルコール製剤使用量と手指衛生遵守状況および微生物伝播の関連に関する調査」では、7施設のNICUにおける手指衛生遵守率と擦式アルコール製剤使用量およびMRSA検出率が明らかとなり、同サーベイランスのリスク調整についての示唆を得た。

『避難所における感染対策マニュアル』を震災後早期に作成公開し、緊急のニーズには対応できたのではないかと考えられるが、検証の結果、物品備蓄リスト等に改訂の余地があることが明らかになった。

以上のように、本研究成果は、新感染症発生時のRC、中小病院におけるサーベイランス、避難所における感染対策の推進に活用でき、感染症危機管理への貢献が期待できる。

F. 健康危機情報

無し

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 西岡みどり. 疫学とサーベイランス. 感染対策 ICT ジャーナル. 7 巻 2 号. 106-110. 2012
- 2) 黒田恵美, 西岡みどり. 未知の感染症発生時のリスクコミュニケーション. 国立病院看護研究学会誌. 2012, 8(1), 14-21.
- 3) 西岡みどり. 日米以外の SSI サーベイランスの現状. 日本外科感染症学会雑誌. 10 巻 1 号. in press. 2013.

2. 学会発表

- 1) Mahoko Sakurai, Midori Nishioka. Goods Used for Preventing Infections at Shelters Following the Great East JAPAN Earthquake. The 11th East Asian Conference on Infection Control and Prevention (EACIC). EACIC2012 Abstracts. pp22. 2012.
- 2) 黒田恵美, 工藤宏一郎, 川名明彦, 西岡みど

り. 新型インフルエンザパンデミックにおける感染管理看護師のリスクコミュニケーションに関する調査. 日本環境感染学会誌. 27 巻 Suppl. pp137. 2012.

3) 坂木晴世, 立花亜紀子, 松本千秋, 水上由美子, 池田知子, 高見澤一穂, 西岡みどり. 新生児集中治療室における手指衛生遵守率と擦式アルコール製剤使用量および MRSA 検出率に関する多施設調査(第 1 報). 日本環境感染学会誌. 27 巻 Suppl. pp105. 2012.

4) 西岡みどり. 医療関連感染サーベイランスの今後. 日本環境感染学会総会プログラム・抄録集. 26 回 pp112. 2011.

3. その他

1) 避難所における感染対策マニュアル 2011 年 3 月 24 日版.

<http://www.ncn.ac.jp/img/kansentaisakumanual.pdf>

2) 黒田恵美, 工藤宏一郎, 川名明彦, 西岡みどり. 「新型インフルエンザパンデミックにおける感染管理看護師のリスクコミュニケーション」調査報告書. 2012 年 3 月 26 日.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

引用文献

1. 中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案) 2009 年 7 月 10 日改訂 4 版. 病院施設の規模別の感染対策の実態調査(分担研究者西岡みどり)平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業(H21-新興一般-001 医療機関における感染症伝播に関する研究(主任研究者 切 替 照 雄))<http://www.nih-janis.jp/material/material/中小施設サーベイランス手順書案改訂4版.pdf>

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hamada Y, Watanabe K, Tada T, Mezaki K, Takeuchi S, Shimizu T, Kirikae T, Ohmagari N.	Three cases of IMP-type metallo- β -lactamase-producing <i>Enterobacter cloacae</i> bloodstream infection in Japan.	<i>J Infect Chemother</i>	Epub		2013
Tada T, Miyoshi-Akiyama T, Shimada K, Shimojima M, Kirikae T	Novel 6'-N-Aminoglycoside Acetyltransferase, AAC(6')-Iaj from a clinical isolate of <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	<i>Antimicrob Agents Chemother</i>	57(1)	96-100	2013
Miyoshi-Akiyama T, Yamashiro T, Mai LQ, Narahara K, Miyamoto A, Shinagawa S, Mori S, Kitajima H, Kirikae T.	Discrimination of influenza A subtype by antibodies recognizing host-specific amino acids in the viral nucleoprotein.	<i>Influenza Other Respi Viruses</i>	6(6)	434-441	2012
Miyoshi-Akiyama T, Watanabe S, Kirikae T.	Complete genome sequence of <i>Streptococcus pyogenes</i> M1 476, isolated from a patient with streptococcal toxic shock syndrome.	<i>J Bacteriol</i>	4	5466	2012
Kitao T, Tada T, Tanaka M, Narahara K, Shimojima M, Shimada K, Miyoshi-Akiyama T, Kirikae T	Emergence of a novel multidrug-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> strain producing IMP-type metallo- β -lactamases and AAC(6')-Iae in Japan.	<i>Int J Antimicrob Agents</i>	39(6)	518-521	2012
Tada T, Miyoshi-Akiyama T, Tanaka M, Narahara K, Shimojima M, Kitao T, Shimada K, Kirikae T	Development of an immunochromatographic assay for rapid detection of AAC(6')-Ib-producing <i>Pseudomonas aeruginosa</i> .	<i>J Microbiol Methods</i>	91(1)	114-116	2012

研究成果の刊行に関する一覧表（2012年）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
大久保憲 ほか	ICT/中材担当者のための洗浄・消毒・滅菌の Do Not & エビデンス 125.	大久保憲	ICT/中材担当者のための洗浄・消毒・滅菌の Do Not &	メディカ出版	大阪市	2012	1-157
大久保憲	手術室環境	日本外科感染症学会編	周術期感染管理テキスト	診断と治療社	東京都	2012	95-100

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大久保 憲	医療機器総論. 内科医が知っておくべき最新医療機器	診断と治療	100(1)	44-52	2012
大久保 憲	ICT と感染制御のガイドライン	診断と治療	100	359-365	1012
大久保 憲	医療関連感染対策 地域支援ネットワーク構築について	感染制御	8	27-32	2012
大久保 憲	平成 24 年度診療報酬改定 感染症対策推進の要点	INFECTION CONTROL	21	430-433	2012
大久保 憲	厚生労働省通知「医療機関等における病院感染対策について」ーわが国の感染制御の変遷を踏まえてー	感染と消毒	19	3-8	2012
Nishihara Y, Kajiura T, Yokota K, Kobayashi H, Okubo T	Antimicrobial efficacies of chlorhexidine gluconate-alcohols and a povidone-iodine solution as skin preparations <i>in vitro</i> .	Healthcare Infect	17	52-56	2012

大久保 憲	診療報酬改定を考える —感染防止対策加算の 改定への道のり— Special feature 感染 管理と地域医療連携	感染対策 ICT ジャーナル	7	222-228	2012
大久保 憲	医療機関における院内 感染対策について	病院設備	54	84-91	2012
大久保 憲	感染制御の道のり—厚 生労働省通知から診療 報酬改定へ—	The Journal of JAHMC	23	11-14	2012
Yutaka Nishihara, Takumi Kajiura, Katsuhiro Yokota, Hiroyoshi Kobayashi, Takashi Okubo	Evaluation with a focus on both the antimicrobial efficacy and cumulative skin irritation potential of chlorhexidine gluconate alcohol-containing preoperative skin preparations	Am J Infect Control	40	973-978	2012
Ryo Fushimi, Masaki Takashina, Hideki Yoshikawa, Hiroyoshi Kobayashi, Takashi Okubo, Seizoh Nakata, Mitsuo Kaku	Comparison of adenosine triphosphate, microbiological load, and residual protein as indicators for assessing the cleanliness of flexible gastrointestinal endoscopes	Am J Infect Control	41	161-164	2013

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
遠藤史郎、徳田浩一、青柳哲史、國島広之、八田益充、具 芳明、山田充啓、矢野寿一、平潟洋一、北川美德、賀来満夫	東日本大震災の避難所において発生した A 型インフルエンザアウトブレイクの事例	環境感染学会誌	27	50-56	2012
Hatta M, Endo S, Tokuda K, Kunishima H, Arai K, Yano H, Ishibashi N, Aoyagi T, Yamada M, Inomata S, Kanamori H, Gu Y, Kitagawa M, Hirakata Y, Kaku M.	Post-Tsunami Outbreaks of Influenza in Evacuation Centers in Miyagi Prefecture, Japan.	Clin Infect Dis.	54	e5-7	2012
Aoyagi T, Yamada M, Kunishima H, Tokuda K, Yano H, Ishibashi N, Hatta M, Endo S, Arai K, Inomata S, Gu Y, Kanamori H, Kitagawa M, Hirakata Y, Kaku M.	Characteristics of infectious diseases in hospitalized patients during the early phase after the 2011 Great East Japan earthquake: pneumonia as a significant reason for hospital care.	Chest	13	doi: 10.1378/ chest.11-32 98.	2012

研究成果の刊行に関する一覧表（24年度分）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
川名明彦	インフルエンザ	後藤元	2012年改訂版 最新・感染症治療指針	医薬ジャーナル社	大阪	2012年	299-304
川名明彦	院内感染防止手順・すぐ実践できる第3版	切替照雄	院内感染防止手順・すぐ実践できる	メジカルフレンド社	東京	2012年	1-277
川名明彦	インフルエンザ治療の進歩	永井厚志	Annual Review 呼吸器 2012	中外医学社	東京	2012年	235-241

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Watanabe A, Yanagihara K, Akihiko K, et al.	Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the Surveillance Committee of JSC, JID and JCM in 2009: general view of the pathogens' antibacterial susceptibility	J Infect Chemother	18(5)	609-620	2012年
川名明彦	インフルエンザの診断と治療	科学療法の領域	28(11)	2181-2188	2012年
川名明彦	インフルエンザワクチン	セフィーロ	16	16-20	2012年
川名明彦	新型インフルエンザ等対策特別措置法の公布	Infection Control	21(12)	1215-1220	2012年
川名明彦	新型インフルエンザとは	THE LUNG perspective	20(4)	375-378	2012年

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hanaoka M, et al	Discrepancy between human T-cell lymphotropic virus type I screening test and confirmatory tests in non-endemic areas	J Obstetrics and Gynaecology Research	38	793-6	2012
Saitoh A, et al	Safety and persistence of immunological response 6 months after intramuscular vaccination with an AS03-adjuvanted H1N1 2009 influenza vaccine: an open-label, randomised trial in Japanese children aged 6 months to 17 years	Hum Vaccin & Immunother	8	749-58	2012

Shoji K, et al	An Infant with Human Parechovirus Type 3 Infection with a Distinctive Rash on the Extremities	Pediatr Dermatol			
Saitoh A, et al	Current Issues with The Immunization Program in Japan: Can we Fill the "Vaccine Gap"?	Vaccine	30	4752-6	2012
Ogimi C, et al	Utility of Gram Stain of Endotracheal Aspirates on Empiric Therapy in Children with Hospital-Acquired Pneumonia	J Infect	65	368-70	2012
Shoji K, et al	Dermatologic Manifestations of Human Parechovirus Type 3 Infection in Neonates and Infants	Pediatr Infect Dis J			
Miyata I, et al	Detection of enteroviral RNA from preserved umbilical cord	J Clin Virol	56	274-5	2013
Katsuta T, et al	Treatment of Pyelonephritis Caused by Extended-Spectrum β -Lactamase-Producing Enterobacteriaceae in Children	Pediatr Infect Dis J			

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 24 年度）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
He, M., Miyajima, F., Roberts, P., Ellison, L., Pickard, D. J., Martin, M. J., Connor, T. R., Harris, S. R., Fairley, D., Bamford, K. B., D'Arc, S., Brazier, J., Brown, D., Coia, J. E., Douce, G., Gerding, D., Kim, H. J., Koh, T. H., Kato, H., Senoh, M., Louie, T., Michell, S., Butt, E., Peacock, S. J., Brown, N. M., Riley, T., Songer, G., Wilcox, M., Pirmohamed, M., Kuijper, E., Hawkey, P., Wren, B. W., Dougan, G., Parkhill, J., Lawley, T. D.	Emergence and global spread of epidemic healthcare-associated <i>Clostridium difficile</i> .	Nat Genet.	45(1)	109-13	2013
加藤はる	「特別講座」BI/NAP1/027 クロストリジウム・デフィシル感染症について.	感染と消滅	19(2)	p89-92.	2012

研究成果の刊行に関する一覧表（西岡 H24）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
—	—	切替照雄, 吉倉廣, 川名明彦, 河野文夫, 西岡みどり, 浅沼智恵	院内感染防止手順 第3版	メヂカルフレンド社	東京	2012	—

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
西岡みどり	疫学とサーベイランス	感染対策 ICT ジャーナル	7 巻 2 号	106-110	2012
西岡みどり	日米以外の SSI サーベイランスの現状	日本外科感染症学会雑誌	10 巻 1 号	in press.	2013

学会発表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Mahoko Sakurai, Midori Nishioka	Goods Used for Preventing Infections at Shelters Following the Great East JAPAN Earthquake	The 11th East Asian Conference on Infection Control and Prevention (EACIC)	EACIC2012 Abstracts	22	2012

